

I 看護部組織・運営

1 看護部組織 看護部管理ファイル参照

2 看護理念・方針 看護管理ファイル参照

II 看護補助者教育(介護福祉士・看護助手)

看護補助者業務を適切に遂行するため、業務上の情報伝達、新たな知識・技術の習得を行う。また、看護補助体制加算に関する施設基準を満たすためには、以下の基礎知識を習得できる内容を含む院内研修を年1回以上受講が必要となる
研修参加時間は、実務時間から控除する

【院内研修に含めるべき基礎知識】

- ① 医療制度の概要及び病院の機能と組織の理解
- ② 医療チーム及び看護チームの一員としての看護補助業務の理解
- ③ 看護補助業務を遂行するための基礎的な知識・技術
- ④ 日常生活に関わる業務
- ⑤ 守秘義務・個人情報の保護
- ⑥ 看護補助業務における医療安全と感染防止 等

1 年間計画

看護補助者会で計画する

ただし、入職時は、オリエンテーションを行う

(医療安全・院内感染対策・感染防止対策研修)

2 部署でのオリエンテーション

入職時、看護師が実施する

【オリエンテーション項目】

1) 環境整備に関する業務

- ① ベッドメイキング
- ② シーツ交換
- ③ ベッド及びベッド周囲の整理整頓
- ④ 処置室・器材庫の整理整頓
- ⑤ 器機・器材 の洗浄と消毒及び整備

2) 移動に関する業務

- ① 車椅子の取り扱い
ベッドから車いすへの移動・車椅子からベッドへの移動介助
- ② ストレッチャーの取り扱い
- ③ ベッドからストレッチャー・ストレッチャーからベッドへの移動介助
- ④ 体位変換

- 3) 排泄に関する業務
 - ① 尿器・便器・ポータブルトイレの取り扱い
 - ② 排尿・排便介助
 - ③ オムツ交換
 - ④ 排泄物の処理
 - ⑤ 尿量測定
- 4) 保清に関する業務
 - ① 清拭
 - ② 入浴介助
 - ③ 部分浴(手浴・足浴)
 - ④ 洗髪
 - ⑤ 陰部清拭
 - ⑥ シャワー浴
 - ⑦ シャワートロリー
- 5) 食事に関する業務
 - ① 配膳・下膳
 - ② 食事のセッティング
 - ③ 食事の介助
 - ④ 食事摂取量の報告
- 6) 搬送業務
 - ① 検体の提出先・出し方
 - ② 血液の取り扱い・受領方法・搬送方法
 - ③ 臨床工学室管理機器の借用・返却方法
 - ④ 看護部管理エアーマットの借用・返却方法
 - ⑤ 薬剤部からの点滴・処方薬・化学療法薬の受領方法・返品方法
 - ⑥ 中央材料室管理物品の返却方法・借用方法

3 達成表の評価

- * 年 2 回自己評価を行い副看護師長に提出する
- * 副看護師長は自己評価を見て他者評価、面接、助言を行う

Ⅲ 看護補助者の任務・役割・業務

直属上司・報告先: 看護師長

1 任務

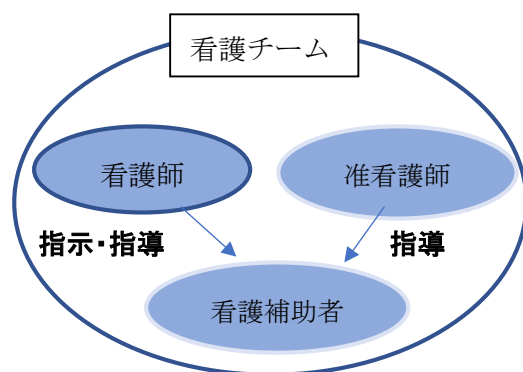
看護補助者は看護師長の指揮・監督の基に、看護の補助業務にあたる

看護が提供される場において、看護チームの一員として、看護の専門的判断を要しない療養上の世話業務および診療補助にかかわる周辺業務を行う

2 役割

看護師と看護補助者がチームを組むことにより、良質な看護サービスを効率的に提供することができる。看護補助者は看護師不足を補うものではなく、看護チームの構成メンバーとして重要な役割と責任を担う

看護が提供される場において、看護チームの一員として看護師の指示のもと、看護師長及び看護職の指導のもとに、看護の専門的判断を要しない看護補助業務を行う。看護補助者は対象者の状態に応じてケアの方法を変更するなど看護の専門的判断は行わないため、標準化された手順に則って、業務を実施する



3 責任範囲

看護補助者は、看護ケアについて、看護師が指示した範囲の責任を持つ

看護補助者は、患者に対する看護ケアについて、何をなすべきか、あるいは何をしてはいけないかについては看護師の指示に従う。もし指示された内容についてどのように行なうのか、やり方がわからない場合は、看護師にたずねて明らかにしなければならない

診療にかかわる周辺業務など、看護の専門的な判断を要しない事項については、看護補助者が判断し責任を持って業務を遂行するが、実施の前後又必要に応じて監督者に報告を行なう義務がある

4 監督

看護補助者の日々の業務は看護師が割り当て監督する

看護補助者の人事管理・労務管理は看護管理者(看護部長)が監督する

5 看護補助者の業務

1) 病棟内業務

(1) 生活環境にかかわる業務

- ① 病床および病床周辺の清潔・整頓
- ② 病室環境の調整(温度、湿度、採光、換気など)
- ③ リネン類の管理

生活環境を清潔に保ち、整理整頓することは患者の生活環境を衛生的かつ快適で安全に保つ上で重要であり、施設設備の保守や作業効率の面からも大切なことである。入院患者にとって病室は医療の場であるとともに生活の場でもある。ナイチンゲールは患者にとって新鮮な空気、日光、暖かさ、清潔さ、静けさの重要性を強調している。患者にとって快適な療養生活の場となるよう日々の病床を整えることが大切である。また、患者のプライバシーが守られ、できるだけその人の生活習慣が大切にされる環境作りに努めるようにしたい

<実際の業務と留意点>

① 病室内の整理・整頓

ア オーバーテーブル、貸与物品(ポータブルトイレ、尿器、ガーグルベースなど)整理

イ ベッド上、ベッドサイドの整理・整頓

使用する人に使用しやすいように整理・整頓する。不要になったものは片付ける

ウ 病室内ロッカーの整理・整頓(個室)

エ 室温、温度の調節(カーテン、冷暖房)

* 患者によって適切な室温は異なることがあるので注意する

オ 臭気対策 排便後などは換気する

カ ごみの始末

* 清掃業者が集めに回るが、そのほかの時、目につくごみは片付ける

② ベッド移動

③ 入院患者用のベッドメイキング(看護補助者業務手順P2～5 参照)

* 看護師から入院患者の情報を得て必要な患者には防水シーツを準備する

④ シーツ交換の準備、実施、後片づけ

* 洗濯室との取り決めにより、病棟毎交換の曜日が決っている

⑤ 処置室、器材庫、リネン室等の整理・整頓

* 定期的を実施する

清潔物倉庫と、器材庫の区別を守る

⑥ 洗面所、浴室、トイレの整理・整頓

⑦ 洗髪車、点滴台、尿器等の清掃・片付け

⑧ 退院患者ベッドの片付け

ア 寝具は院内の決まりにそって行う

イ ベッド、床頭台、ベッド周囲の清掃

* いらない物は早く片付ける。廊下などに物が置いてあると通路が狭くなり、患者の事故につながる恐れがある

(2) 日常生活にかかわる業務

- ① 排泄に関する世話
- ② 保清に関する世話
- ③ 食事に関する世話
- ④ 安全・安楽に関する世話
- ⑤ 移動・移送に関する世話

<実際の業務と留意点>

① 排泄に関する世話

排尿・排便は人間の基本的生理現象であり、その自立は生活能力の基本である

排泄が不自由になったとき大半の人は、排泄物や皮膚が人に見られることは恥ずかしいこと、また、人手を煩わせたくないと思う。排泄の援助はこのようなことに関わる行為であり、十分に配慮することが大切である

② 尿器、ポータブルトイレの片付け、手早くきれいにする(助手業務手順P11 参照)

③ 尿量測定

尿量は正確に測定し、記入する(診断や治療のために大切なデータとなる)

④ 全尿中一部尿採取

検体容器の氏名と畜尿袋の氏名を確かめ、間違えないようにする

Ccr では正確な 24 時間蓄尿が必要(Ccr 採血も忘れずに提出する)

⑤ 蓄尿袋の交換

⑥ 膀胱内留置カテーテルにたまった尿の後始末

⑦ 保清に関する世話

皮膚を清潔にすることは、気分転換を図り闘病意欲を高め、血液循環を良くし新陳代謝を増進させる。同時に、全身状態の観察を行うこともできる。患者のプライバシーを守りながら適切な温度で、短時間で行うことが大切である

(看護補助者業務手順P8～9 参照)

⑧ 食事に関する世話

人間は生物として生きていくために食べることが必要である。また、食事は生活を豊かにするものである。心身の障害により、食欲が低下した患者、自力では食べられない患者に対して、少しでもおいしく食べられるように援助することは、大切なことである

ア おしぼりタオルの準備及び配布

イ 患者の食前準備

ウ 許可されている範囲で、頭部を上げるなど食べやすい体位にする

(看護補助者業務手順P15～17 参照)

エ 配膳

* 患者を間違えないように患者の氏名を確認し配る

* 検査、手術などで「延食」「禁食」「絶食」の患者に注意する

* 食べやすいように箸、スプーンなどお膳をセッティングする

オ 食事介助

* 看護師の指示のもと食事介助を行う

カ 下膳

- * 自分で下膳できない患者の下膳をする
- * 下膳した患者の食事摂取量を報告する

キ 口腔ケア（看護補助者業務手順P14 参照）

⑨ 安全・安楽に関する世話

患者にとって安全で安楽な環境・状況とは、安心して心地よく療養生活が送れる環境・状況のことである。看護職の役割はこれらのことを提供することである

入院することで患者の生活空間は狭められ、物理的にも精神的にも窮屈になる。ベッドとその周辺の狭い空間でいかに安心して快適な毎日を送ることができるか、患者の身になって配慮することが必要である

ア 床に水がこぼれていたら、すぐ拭く

イ 廊下などの整理・整頓をする

ウ 移動を促す時・介助する時は、患者に声かけをしてから行う

エ 危険な個所・物などに気がついたら、看護師長に報告する

オ 移動が終了したベッドには、ストッパーをかける

カ 体位変換

- * 体位変換を行う看護師の補助

⑩ 見守り

- * 認知症患者や不安や不穏がみられる患者の見守り

⑪ 移動・移送に関する世話

移動とは身体的位置を空間的に変えることである。移動の自由を奪われた人の生活空間は狭められる。治療や身体状況により、移動の自由が奪われた患者には、できる限りの移動を援助する必要がある。しかし、どのように、どれ位移動が可能かは医師や看護師の判断のもとで行なわれる。患者に移動を依頼された場合も、ひとりの判断で実施してはならない

移動の援助方法として、車イス、ストレッチャーによる移送がある。これらを使用する時は、患者が安全・安楽であるための知識と技術を身につけることが大切である。車椅子、ストレッチャーの構造や操作方法を理解すると共に、定期的な点検と手入れを行うことも必要である（看護補助者業務手順P6～7 参照）

ア 移送時の注意

- 患者搬送前には、トイレに行かなくてもよいか確認する
- 車椅子・ストレッチャーを止めた時・患者が乗り降りする時は、ストッパーをかける
- 「移送時のスピードが速すぎると患者は不安を覚える」ので速度に注意し、患者が安楽であるかを確認する
- 時間が指定されている検査等のために移送援助する場合は、指定時間に間に合うように所要時間を考慮して移送援助する
- 段差のある所、つなぎ目のところに注意する

イ 車椅子での移送

- 臥床していることが多い人、長く臥床していた人、リハビリ開始直後の人などはふらつくことがあるので注意し、介助する

- ii 点滴台を持っていくときはチューブ類が十分な長さがあるか確認し、抜けないように注意する

- iii エレベーターに乗る時、隙間があるので注意する

ウ ストレッチャーでの移送

- i ストレッチャーに移す時、一人で動けない人などの場合は看護師を呼び、複数でスライド板を使用して移動する。痛みのある場合は特に配慮する

- ii 必ず、サイドのベッド柵をあげてベルトで固定する

- iii 平らな所・下りの所は足を先に、上りの所は頭を先にする

エ 移送器具の取り扱い(日常の手入れ)

- i 車椅子、ストレッチャーの清掃

- ii 車椅子のタイヤはいつも適度の空気を入れ、車輪の油さしを適宜行う

- iii 部署定数管理

⑫ ナースコール対応

6 診療・看護に関わる周辺業務

1) 搬送業務

(1) 検体 * 至急検体を検査室に提出

* 採取後すぐ提出しなくてはならない検体に注意

(2) 薬品 * 注射薬の個人セット、定期・臨時の処方薬、処置薬、返品薬の搬送

* 冷所保存の薬品に注意血液 * 院内の血液に関するマニュアルを熟知する

(3) 血液は、血液専用保冷庫に保存する

- ① 看護師より血液受け取りに行く連絡を受けたら、血液指示票と運搬バック(製剤により保冷剤の入る場合、入らない場合あり)を持参し、血液管理室に行く
- ② 血液管理室では、輸血指示表により患者ID・氏名・血液型を確認後払い出し者が交差試験報告書に記載された内容(患者ID・患者名・製剤血液型・製剤名・単位数・ロット番号・有効期限・照射の有無・照射日)を、声を出して読み上げる。受領者は、製剤に書かれているそれらの内容を確認する
- ③ 受領者は、交差試験報告書に受領のバーコード認証またはサインをする
- ④ 血液指示票と製剤を運搬バックに入れて持ち帰る
 - * 赤血球濃厚液・新鮮凍結血漿は保冷剤入り
 - * 濃厚血小板は保冷剤なし

(4) 返品について

- ① 未使用の血液は、返品期限内に血液管理室に返品する
- ② 検査結果の受領 * 心電図、画像フィルムなど
- ③ 中央材料室の使用器材
- ④ 臨床工学室管理器材の借用・返却
- ⑤ 看護部管理のエアーマットの借用・返却

(5) 診療材料・一般消耗品等の補充・整理

(6) 患者に使用した器具の洗浄

* 院内マニュアルに沿って行う

* ベッドバンウォッシャーの操作手順を熟知する

(7) その他

- ① 入退院・転出に関する世話
- ② 患者依頼の買い物、配属責任者の指示による業務

IV 安全と感染予防

1 安全

1) 患者確認・・・「医療安全管理マニュアルⅡ－1」より抜粋

(1) 患者確認の要点

- ① 名前はフルネームと生年月日で確認する
- ② 患者自身に名乗ってもらう
- ③ 同姓同名者の存在を常に意識する
- ④ 名乗った氏名とリストバンドの照合(入院)

2) 院内暴力・不審者・不審物対応・・・「医療安全管理マニュアルⅡ－16」より抜粋

(1) 対象となるもの

- ① 言葉による暴言・脅迫・金銭強要
- ② 身体的暴力・器物破損・殺傷道具を使用した暴力
- ③ 性的嫌がらせ・執拗な身体への接触
- ④ 不審者
- ⑤ 不審物

(2) 対応について

- ① 自らの安全を確保し、同僚の応援を頼む
- ② 加害者には近寄らず、他の患者や職員を周辺から遠ざける
- ③ 応援者が来るまで離れた場所から出来るだけ複数で監視する
- ④ コードイエロー

院内暴力発生をもっとも短縮して伝えるための暗号

現場の当事者あるいは周辺の見撃者が、警備室(3111)に連絡し「コードイエローを起動させる」。「コードイエロー」を受けた警備員は、次の連絡部署に連絡をすると同時に現場に駆け付け対応する

(3) 院内暴力対応の基本

- ① 自分ひとりの力で処理しようとしない。安全管理はすべてに優先する
まず、第一に人を集める
- ② 連絡は迅速に、情報共有は手順に従って集行的に行う

3) 義歯・めがね・補聴器などの取り扱い

生活のために必要不可欠な義歯・眼鏡・補聴器等について、患者が検査・処置・手術等のため一時的に外す場合は、原則、患者・家族が自己管理することとする。やむを得ず、医療者が預かる場合は、紛失しないよう充分注意する

(1) 管理方法

- ① 原則、患者・家族が自己責任において管理することとし、医療者は預からない
(入院中の患者が検査等で病棟から他部署へ行く際は、原則病棟に置いていく)
- ② 患者・家族が保管できない場合のみ、やむを得ず、医療者が保管する
 - ア 中身が見える透明なビニール袋やコップに入れて氏名を記入し、見えるところに置く
 - イ 保管場所は各部署で定めた場所とする
 - ウ 検査・処置等で預かった場合は、終了後速やかに患者に返却する

- (2) 紛失時の対応
 - ① 対応者は部署責任者に報告する
 - ② 部署責任者は調査し、見つからなければ財務スタッフ・経理担当に報告する

- 4) 個人情報の管理上の注意
 - (1) 患者の氏名が部外者に見えないように扱う
 - ① 患者の氏名が記入された書類等は、見えないように保護する
 - ② 患者の氏名が記入された書類等を破棄するときは、シュレッターにかける
 - (2) 患者のネームプレート(廊下)は、患者の要望を聞き表示する
 - ① 入院時、または申し出があった時に対処する
 - (3) 面会者への対応
 - ① 面会者から入院をしているか問われた時は、「入院受付または守衛室に尋ねるように」と返答する
 - ② 患者の病状を問われた時は、「家族から聞いてほしい」と返答する
 - ③ 面会を断りたい希望がある患者には、「お見舞客等の申出書」に記載してもらい、入院受付・守衛室・スタッフステーションに置き、対処する
 - (4) 患者の病状等個人情報について話す必要があるときは、他者に聞こえないように配慮する
 - ① 出来る限り個室を使用する
 - ② やむを得ず大部屋で話す必要があるときは、声のトーンや話す内容を考慮する
 - (5) 患者の名前を、他者に聞こえるように大きな声で呼ぶような行為はしない

2 院内感染対策

1) 標準予防策(スタンダードプリコーション)とは

医療ケアが提供されているあらゆる現場において、「すべての人は感染しうる病原体に感染しているか保菌している可能性がある」と仮定して行う予防策である

2) 血液

(1) 汗を除くすべての体液、分泌物、排泄物

(2) 粘膜

(3) 損傷した皮膚を感染の可能性がある物質とみなし対応することで、患者と医療従事者双方における院内感染の危険を減少させる予防策である

3) 標準予防策の実践

(1)手洗い

石鹸と流水による手洗いや、手指消毒を行うことを、手指衛生という。標準予防策では、人から人、また同じ患者のある身体部位から他の身体部位への微生物の伝播を予防するために、手指衛生を最も重要な感染対策と位置付けている

手指衛生の種類

【流水とせっけんを用いた手洗い】

目的	汚れ及び一過性微生物の除去
方法	流水と液体せっけんを用いて 10～15 秒以上洗う
必要な場面	手指に目に見える汚れや、血液や体液が付着している時 食事の前 排泄の後 ノロウイルスや芽胞を形成する細菌の微生物を含む湿性生体物質に触れた後

【擦式アルコール手指消毒薬を用いた手指消毒】

目的	一過性微生物の除去あるいは常在菌の除去、殺菌
方法	擦式アルコール手指消毒薬を1プッシュし乾燥するまで擦り込む 擦式アルコール手指消毒薬での消毒を5～6回繰り返すと手がべたつくため、流水での手洗いを入れてべたつきや汚れを落とす
必要な場面	患者に接する前 血圧測定や体位変換など患者に触れた後 患者周辺の環境や物品に触れた後 手袋を外した後

<手洗いの基本>

- ・手袋着用の有無に関わらず血液、体液、分泌物、排泄物に触れた際は、手指消毒を行う
- ・患者と接触する前や手袋を外した直後、また、同じ患者であっても処置やケアの間には手指消毒(擦式アルコール手指消毒薬を含む)を行う
- ・手袋を破損させないためと爪先を完全に洗えるように、爪は短く切っておく

(2) 防護用具の使用

血液・体液など湿性生体物質に接触する可能性があるときは防護用具を着用する

(手袋、マスク、エプロン・ガウン、キャップ、フェイスシールド・ゴーグルなど)

⇒使用後の防護用具は汚染面を素手で触れないように注意しながら直ちに脱ぎ、手洗いを
行う

⇒湿性生体物質が付着した防護用具は感染性廃棄物として廃棄する。付着していないも
のは、一般廃棄物として処理する

防護用具は診察室、処置用ワゴン、病室、処置室、検査室など必要な場所ですぐ使用
できるように設置する

手袋

① 手袋が必要な場面

- ・血液、体液、分泌物、または汚染物に接触する可能性があるとき
- ・粘膜、損傷のある皮膚に接触するとき
- ・ガーゼ交換などで汚染ガーゼを除去するとき
- ・鋭利な器材を扱うとき
- ・湿性生体物質で汚染された器材や環境表面に接触する可能性があるとき
- ・手に傷があるとき

② 手袋使用時の注意点

- ・同じ患者であっても、処置毎に手袋を交換する
- ・使用前後は、必ず手指衛生を行う
- ・手袋をはずすときには、汚染表面を素手で触れないように注意する

* 手袋の外し方

- i 手首に近い縁側をつかむ
- ii 手首の内側に手を入れる
- iii 手袋の内側が表になるように外す
- iv 内側が表になるように外す
- v 手袋を着用している手で外した手袋を握る
- vi ゴミ箱に廃棄し手洗いをする

マスク

- ・患者の感染物質(呼吸器分泌物及び血液や体液のしぶきなど)から医療従事者を守るた
めに装着する
- ・医療従事者の口や鼻に保菌されている感染性微生物の曝露から患者を守るために、滅菌
下での処置を必要とする時に医療従事者が装着する
- ・患者からの他の人々に感染性呼吸器分泌物が拡散するのを制限するために咳をしている
患者が装着する(呼吸器衛生 / 咳エチケット)

【マスクの種類】

サージカルマスク(外科用マスク)、N—95微粒子マスク

ガウン・エプロン

- ・血液、体液などの分泌物などが飛散し、飛沫が発生する恐れがある処置やケアまたは器

材の洗浄を行う場合、皮膚と着衣の曝露を防ぐためにアイソレーションガウンまたはビニールエプロンを着用する

- ・アイソレーションガウンまたはビニールエプロンは撥水性あるいは防水性のものでなければ、防護効果は得られない
- ・アイソレーションガウンやビニールエプロンを脱ぐときは汚染面に触れないようにし、汚染面を内側にして脱ぐ

*ビニールエプロンの脱ぎ方

- i エプロンの前面は汚染していると考え、手で触れないようにはずす
- ii 首にかけた紐の部分を強く引く
- iii 裾を腰の高さまで外側を内側に折り込むように持ち上げる
(エプロンの前面汚染部を内側に閉じ込める)
- iv 後ろの紐を引きちぎり、丸めて廃棄する

③ 呼吸器衛生 / 咳エチケット

呼吸器症状を有するすべての患者・面会者・医療者・病院職員に対し、病院内に足を踏み入れた瞬間からインフルエンザや結核のように飛沫や空気を介する呼吸器感染症の伝播を予防するために行う対策である

- ア 咳やくしゃみをするときは、口と鼻をティッシュかハンカチで覆う
- イ 鼻をかむ、痰を出すときは、これらの呼吸器分泌物をティッシュでぬぐい、最寄りのゴミ箱に廃棄する
- ウ 鼻をかんだ後、痰を出した後は手を洗う。また、これらの呼吸分泌物で手が汚染したときも手を洗う。ゴージョーを使用しやすい場所に設置する
- エ 患者・面会者・医療者・職員等に風邪の症状があれば、マスク着用、手洗いの励行について説明する

④ 検体の取り扱い

- ・検体を運搬する際には、運搬用の容器に入れて運搬する
- ・検体容器に直接接触した手袋をはめたまま運搬しない
- ・検体を取り扱った後は、手指衛生を行う

⑤ 環境

廃棄物の処理

院内から排出される廃棄物の処理は、「感染性廃棄物の処理マニュアル」に沿って適正に処理される

各部署から排出される廃棄物は、下記のように分別する

清掃

病院清掃の目的は、患者に対し常に清潔で衛生的な生活環境を提供し、快適な療養生活を過ごせる状態に保持することであり、環境表面を消毒するのではなく、汚れや埃を除去することが基本である

- ・清掃は感染対策の基本となる。ゴミがたまっていることのないように注意する
- ・標準予防策の遵守(清掃を行うときは、必ず手袋を装着する。血液、体液等の汚染に曝露する可能性がある場合、エプロンを着用する)

- ・清掃中の手袋で、患者が患者や医療従事者が直接触れるところ(ドアノブ、オーバーテーブルなどに触れないように注意する
- ・微生物は埃に付着して浮遊するため、集塵式掃除機または専用ドライモップを使用する
- ・清掃は、上から下へ、奥から手前へ、部屋の隅は丁寧に、清潔区域から汚染区域へ、埃を舞い上がらせないように行う
- ・病室内の床には物を置かないように整理整頓を心がけ、清掃が確実にできるような環境を整える
- ・床に飛んだ血液等は手袋を着用してふき取った後、0.5%次亜塩素酸Na(ピューラックス)で清拭する

【次亜塩素酸ナトリウム溶液の作り方】

- * 0.05%溶液 ピューラックス 25ml に水を加えて全量 3L
- * 0.5%溶液 ピューラックス 250ml に水を加えて全量 3L
(ピューラックスの次亜塩素酸ナトリウム濃度は6%)

リネン

洗濯の目的は、洗浄することにより、有機物の汚れを除去し清潔を保つことである

- ・血液および体液等で汚染されたリネンはアクアフィルムに入れ、洗濯依頼する
- ・布団、毛布、枕等が血液や体液で汚染した場合は、カバーをつけたままアクアフィルムに入れ洗濯依頼する
- ・ベッド及びマットレスは、患者退院後に埃を取り、環境クロスで清拭する。

添付資料

廃棄物分類表

感染性廃棄物		非資源ごみ			資源ごみ
鋭利物廃棄物 (針・鋭利物)	蓋付ゴミ箱 (血液・体液の付着したもの)	一般ゴミ箱 (可燃ごみ)	紙オムツ専用 ゴミ箱	プラゴミ箱 (プラスチック類)	瓶・缶 ペット ボトル
黒BOX	水色ビニール袋	透明ビニール袋	透明ビニール袋	半透明ビニール袋	回収 BOX
針 針付きシリンジ メス アンプル等	バイアル、点滴瓶 輸血パック・ルート 血液・体液・抗がん剤付着 ・ガーゼ類 ・シリンジ(針なし) ・輸液セット付き輸液パック ・防護具 ・カテーテル類 (血管、吸引、尿等) ・ウロガード、蓄尿袋 接触予防策を実施している患者に使用した医療用廃棄物 下痢・血液付着の紙おむつ	紙・布・不織布・ 未使用のガーゼ マスク 病室のごみ (6B 病棟、接触予防 策実施患者のものを 除く) 経管栄養パック及び 注入シリンジ 生ごみ 弁当の容器	紙オムツ 尿とりパット (下痢、血液付着、 接触予防策実施患 者のものを除く) おむつ交換時に使 用した防護具	血液・体液付着のない ・手袋、エプロン ・輸液パック (輸液セット付き含む) ・シリンジ(針なし) ・酸素カヌー、 マスク 空容器 ・ゴージョー ・注射薬、消毒薬等	

V 看護補助者の心構え・接遇

1 心構え

1) 看護補助者として業務に携わるにあたり、病院職員としての心構えが必要である

- ① 患者家族のプライバシーを守る(病院で聞いた患者に関することなどは話さない)
- ② 患者の生命に関わることもありうることを考えて、行動する
- ③ 患者家族および職員にいつも笑顔で気持ち良く接する
- ④ 補助者業務の基本となる事をしっかり身につけ、わからないことは聞いて、自分で納得し、了解してから行動する
- ⑤ 業務を進めるにあたっては周囲の状況など自分で考えながら行動する
- ⑥ 心身の健康を保つように自分の健康管理に気をつける
- ⑦ 患者家族に医療・看護等について聞かれたら、曖昧に答えや憶測で返事をしない
専門知識は持っていないが、病院職員であることを自覚して看護師長に伝えるなどして患者家族の意向はしっかり伝える

2 接遇

社会人としての基礎をふまえた優れた接遇を心掛けることが必要である

3 身だしなみ

病院職員として患者に不快感を与えない身だしなみを心がける

1) ユニフォームについて

決められたユニフォームや名札の着用、身だしなみは患者(家族)へ安心感・信頼感を与えるばかりではなく、自ら仕事に従事している心構えを持つ基本姿勢である

- ① ユニフォームは貸与された正規ユニフォームを着用する
- ② 共同業務の場合は、許可された病棟スクラブの使用を可能とする。スクラブのみ下に長袖シャツ(黒・白・グレー)の着用が可能。
- ③ 洗濯は決められた曜日に洗濯カゴに入れる
その際、ポケットの中を確認する。ポケットの中に何かしら入れたまま洗濯に出した場合は、看護部に回収され看護師長を通して本人に差し戻される
ポケットの中身が USB 個人情報に関するものや、薬、針や危険物であった場合は理由書を提出しなければならない
- ④ 名札(勤務中は常に携帯し、見えるように付ける)
- ⑤ 防寒用としてカーディガンを着用するときは白・紺・ベージュ・グレーで華美にならないものとする
- ⑥ 白のスニーカー(華美な装飾がないもの)とする
- ⑦ 仕事をするのにふさわしい清潔な服装、身だしなみを心がける
髪型は、接遇を意識した看護補助者という仕事にふさわしいようにまとめる
ロングやセミロングの人は襟につかないよう束ねた髪が長く垂れるようならアップにまとめる。前髪で顔が隠れないようにする。毛髪の色は自然に近い色にする
- ⑧ ピアス、イヤリング、ネックレス、指輪はしない
- ⑨ 香水・コロソ・ハンドクリームなど香料のきついものは避ける
- ⑩ その他、ユニフォーム関係で問題があった場合は、理由書を記載して看護部に提出する

4 病院職員としての規律

- ① 時間的な余裕をもって職場につく
- ② 挨拶をきちんとする
- ③ 同僚・他部門の人・患者は正しく姓名で呼ぶ
- ④ 必要な会話は簡潔に行う
- ⑤ 仕事の人には了解を得てから話す
- ⑥ 勤務場所を離れる時は行き先を告げ、常に自分の居場所を明らかにしておく
- ⑦ 休憩時間のけじめをつける
- ⑧ 廊下は静かに右側を歩く
- ⑨ 話の取次ぎは正確、丁寧に行う
- ⑩ 服装規定を守る